



Prologue

前の会社を飛び出すように辞めて早や1年…。とにかく苦しんでいる日々だ…。これはそんな苦しんでいる日々を振り返りたくなはいが…振り返ってみる「備忘記録」的なものである。したがって就職活動のお役立ちの情報は全くないし…そんなものは本屋で売っている本を隅々まで見てくれればいい…。ただ「自己満足」と「被害妄想」いっぱい記録なのである。

まあ、役立つ情報はないけど…その辺は勘弁していただいて…。

2010年6月25日

わらじ

2009年7月7日。

もう一年前の話にさかのぼる…。

都内にある会社を辞めると上司に言ったのが2009の七夕の事…。

この年の春くらいからうつ病を患った上にこの会社にはもうやっていけないな…と思っていたのがすべての始まり…。社内の雰囲気はパワハラもあって、良いとは言えなかった…社長や取締役の怒声が毎日飛び、他部署のミスを取り上げて男子社員全体に押し付ける会社だった…。我慢はすでに限界だった…。

その日の朝一番に退職の意思をA課長代理に伝えた。病気のことは知っていた。退職直前に3週間ほど休職したのだが…復帰直後に呼ばれてこう言われた…。

「ウチは伸び盛りでこれからの会社だから、こんなことでこれ以上休まれても困る。自分たちはもっと働いているのだから…。」

はっきり言って復帰するんじゃないな…そう思った。3週間やそこらですぐに良くなるような病気ではない。しかも病気に対する「理解」は少しも感じなかった…。

その後も気分は優れず…このままでは業務に耐えられない…そう感じていた。それに加えて、男性社員全員に月一回ながら徹夜で作業を行えとの指示が出た…。もうこれ以上やってられないな…そう思った。

さて、7月7日の朝のことに戻りたい…朝一番にA課長代理に「話がある」と言って会議室に呼び出した。会議室に入り、椅子に座ると1ヶ月の休養が必要と記された診断書と退職願を差しだし、「辞めさせてください」と単刀直入に伝えた。A課長代理は少し困った顔をしていた…その年の4月に主任から課長代理に昇格したばかり…おそらく部下の退職というのも経験はないだろう。少し間を開けてこう話した。

「わかったけど、Bさん（取締役兼部長）の話として2つ考えられる。一つはこのまま退職が認められる。もう一つは休んでもう1回仕事するかどちらか。でもホントに辞めるんだね？やっぱり辞めませんってことはないよね？」

なぜか退職することに念を押し始めた。しかし、自分の決意は固いことを伝えた。するとA課長代理は…

「わかった。Bさんには僕から伝えておく。」

そう言ってその場は終えた…。

その日の昼前だっただろうか…B取締役兼部長から呼ばれた。ガラスに囲まれた豪華な副社長室に入るとBさんが座っていて、開口一番こう切り出した。

「お前は病気じゃない。目を見てわかる…。」

早速、「否定」から入った。その後は病気などのことに関して持論を繰り広げていた。「俺は医者じゃないけど…」と前置きもしながらもそのいかにも知ったかぶった発言はまさしく「エセ医者」だった…。最後には「お前は怒られ足りない。」と自らがやってきたことが正しいかのような発言でめてきた。もうたくさんだった…。

退職は翌日の8日に決まり、退職という「大仕事」はすべて終わった…。

翌8日、逃げ出すように自分は退職した。もう関わりたくないというのが正直な感想だった…。

2009年7月25日。

7月8日に退職が決まり、いろいろとやることは多かった…。まず8月上旬には税理士試験…。その前にもお世話になった数少ないが…友人にも退職の報告をしなければならない…。何人かにはメールを通じて会社を退職したことを伝えた。その中で在職中に知り合ったCさんから「今度飲もう」と誘われた。その日は7月25日に決まった。

その日は両親も泊まりで出かけており、あまり出かける気持ちにはならなかったが…夕食を食べるのを兼ねて行きつけになったお店に向かった。場所は東京・赤坂…。

店には8時ころに着いたが、すでにCさんは店にいた。横に座ると携帯で写真を撮りだした。撮った写真をブログで紹介してほしかったようだ…。盛り上げようと必死になっていたが…そこに乗れない自分がいた…。

そうなるCさんはいら立っているがわかった…。Cさんは言葉がきつい人でだんだん語気が荒くなる…。会社を辞めたということも手伝ってその言葉は「怒り」に変わっているのが手にとってわかった…。

Cさんは最後には吐き捨てるように自分に指を指してこういった…。

「いいか！世の中すべての人がいい人だとは思わないよ！」

このことで「まだ外出られないな…」そう思った。しばらくは一人でいたいな…そうとも思った。

2009年8月下旬。

就職活動を開始したのは8月下旬のこと…。7月の下旬には会社から離職票が届き、給付金などの就職活動の準備が整ったのと同時に8月に入ってすぐに税理士試験を受験した。正直受験という態勢にはなっていなかったな…というのが現状であった。

ほぼ2カ月休み、就職活動をようやく開始したのは8月下旬のこと…。翌年の税理士試験に向けての講座が9月半ばからスタートしたこともあって、授業のある毎週、月曜日と木曜日にはハローワークに通っていた。雇用状況が厳しすぎるということは十分承知してのスタートであった。ひとまず応募先を会計事務所に絞って履歴書や職務経歴書を送ったが…すぐに返送されてくる…その後は会計事務所限らず一般企業にも送ったが結果は同じで、非常に厳しいスタートになった。

面接は9月に2社ほどあった、しかしものの数日で不採用の通知が来るそんな有様…。もちろん面接まで行けば奇跡的なもの…。そのほとんどは書類選考で落とされる。その不採用通知もさまざまで、ひどいものでは「すみません。今回は不採用でお願いします。（原文ママ）」なんてものもあった。おそらくその大部分は書類なんて見ていないんだろうな…とも思わせた。

10月入っても現状は変わらなかった…。9月半ばから10月半ばまでの1ヶ月間はまったく面接すらない日もあった…。雇用不況のあおりを思いっきり受けていた。

このころ、自分自身として就職活動のゴールを2010年5月末と決めていた。それまでに何としても決めたいそう思っていた。しかし、それとは裏腹に不採用の連続…。光すら見えないそんな日々であった…。

2009年11月2日・裏切り...

最初のチャンスは11月2日のことであった...

その日は学校が休講日になっていたが...インターネットで応募した会計事務所から面接の話が来たため、朝から東京・高田馬場に向かった。その足でハローワークへ...いつもの通りに紹介状を出してもらうために相談窓口へ向かう...。月曜日のハローワークはいつも混み合う。34歳以下を対象にした「ヤングコーナー」も例外ではなかった。この日は1時間半ほど待って自分の番が来た。職員が応募したい会社に電話をかけて書類選考の承諾や面接の日程を決めてくれる。なんとこの日に応募したある税理士事務所で「急募なので今すぐ面接に来てほしい。体だけはまず来てほしい。」ということだった。運のいいことに午前中は面接でスーツ姿。スタンバイはすでに整っていた。

夕方にその現場に向かった。その日は朝から雨で夕方にもその雨はやんでいない、かなり寒い日だった。求人票の地図もいい加減で地下鉄の駅を降りてからかなり迷った...。事前の準備も十分にできておらず面接に臨んだ。

面接の細かな内容は覚えていない...ただ、「こんなヤツは辞めさせた」とか「使えないヤツがいた」とかそんな話を30分近く面接を相手していただいたその所長さんは繰り広げていた覚えがある。そして、給料も安く、社会保険も雇用保険と労災保険以外はなく、健康保険と年金は各自加入する形式であり、交通費支給もほとんどなかった...ただ税理士事務所で働けばいいと思い、ここの事務所でやっていきたい旨を伝えた。所長も「君を採りたいと思う。」と太鼓判を押していただき、すぐ書類を送ってほしいと切手も渡された。これで決まったと思った。

翌日は休日ですぐに書類を作り、4日には郵送した。しかし、それ以後まったく連絡が来ない...。しかし、「吉報」を楽しみに待っていた...

そして、11月7日の朝に携帯に所長さんから電話があった...

「採用を見合わせたい」

と...

確約をしてもらったのに裏切られた気分させられた。その後、2009年はまったく面接らしい面接はなく終わった...。11月以来、仕事は当分無理だなと半ばあきらめの気持ちもあったことが結果になって現れてしまった...。終わってみれば2009年はまったくいいことがなかったな...と絶望感いっぱいの気分で終わった...。しかし、年末年始も関係なく不採用通知が来ていた。今は「メール便」が発達しており、日曜や休日関係なく郵便が送れる時代...。そんな便利なものが恨めしく思う2010年の始まりであった。

2010年1月19日・内定辞退。

2010年に入っても厳しい状況が続いていた。しかし、チャンスは不意に訪れる。ある会社の面接があった。その会社もバタバタしており面接の時間を3~4回変えてきた。しかし、面接は1月19日の9時30分に決定した。休日都内の外れにあるそこの会社の本社と言われる場所に向かった。

現場に到着すると商店街があるだけでオフィスらしき建物はない。散々迷ったあげく、求人票の所在地を見てそこに行くと、生活用品店でインド人の店員らしき外国人がシャッターを開けていた。ますますわからなくなり担当者に電話をかけるとたどたどしい日本語で...「シャッターアイテイルノワカリマセンカ?」と言ってきた...。なんと、その生活用品店が面接会場で面接官はそのインド人らしき店員だったのだ...。もちろん求人票の事業内容には「雑貨店の運営」なんて記載は一切ない...自分の横には値札のついた缶詰めが何個か置いてある。多少面喰った中で面接が始まった。もちろんそのインド人系の方も日本語がたどたどしい...ときどき聞き取れない状況もあった中で20分ほど面接をして終了した。帰りにはお礼を言った際に半開きになっていたシャッターに頭をぶつけてしまうなど、最初から最後まで「意味不明」な状況になっていた。終了後、その店の端に会社名の看板が小さく書かれているのを見た。大きさは表札以下でこれでは会社とは全く気付かないだろうと思ってその場を終えた。

翌日の1月20日の午後、その会社から電話があった。面接の担当者からだった。もう一度会って話したいということ。事実上の二次面接だ。会社側は突然今日来てほしいと言ってきたが、連絡をくれた即日もないものだろうと思い、翌21日の朝に二次面接は決定した。場所は都内にあるその会社の親会社の本社であった。

翌日の朝にそこの場所に向かった。今度はちゃんとしたオフィスビルにあった。しかし、面接の相手はそこの会社の社長であるバングラディッシュ人の方...日本語がたどたどしいのはもちろん、なぜか手には自分の履歴書や職務経歴書は一切ない...首をかしげたくなる状況の中で面接となった。しかも面接場所は会議室や応接室などもない...社長の机の前だった...

面接の詳しい内容はごく当たり前の質問だったと思う。ただ、不思議だったのは土曜日でも出社しないとボーナスがもらえなくなり、昇給もないということを経験して言われたことが非常に気になった。そして、この場で給与の具体的な提示もされた。ごく一般的な企業に比べると10万円近く低いうえに社会保険は労災保険と雇用保険のみ...国民年金と国民健康保険料を払うと給料はほとんどなくなるほどの金額だった。そこには不満もあったが、社長はこういった。「君を一番に考えている。」...以前どこかで聞いたような発言だった。一度「免疫」ができていたのであまり本気にならずに聞いていて、二次面接も終了した。

週が開け、1月27日。そこの会社から内定が出た。ついに就職活動も終わりだという安どの気持ちも少しあったが...「この会社でいいのか?」という気持ちもあり、複雑な心境であった。しかし、もうこの段階で100社以上の会社に応募していることもあり就職活動は終止符を打とうと思っていた。「背に腹は代えられない」ということだろう...ただ、この内定を快く思わない人もいた...自分の両親である。特に父親は「頑固」という言葉がぴったりな人物で一度自身で決めたことはテコでも動かない人...帝国データバンクなどで当然会社の内部も調べて待遇面の話を知ると、「すぐに断りの電話を入れろ。」と言いつつ出したのだ。

しかも、最初は「(入社を)辞めといた方がいいんじゃないか...。」と始まったが段々父親が

声を荒げてきた…。母親もそれに同調し、まさしく四面楚歌の状況になっていた…。

「この給料で土曜も出る？おかしい！」

「社会保険がないのはおかしい！」

「交通費が全く支給されない！おかしい！」

「俺は調べた！わけのわからない会社だ！」

「給料から社会保険料の支払いを引いたら手取りはバイト並みだ！」

「この会社に入ったらまたすぐに就職活動をするなら入社してもいい！」

矢継ぎ早にこの会社は変だから辞めろ！すぐ辞退しろ！と30分近くにわたって騒ぎだした。

「また仕事探せ！」とか言っておきながら「今、事務職の採用はない！」と持論を展開し始める始末…。自分も…。

「ここの親会社で面接を受けてきた！まっとうな会社だ！」

と力説しても全く聞く耳を持たない…。

結局、内定を辞退することに強引に決まってしまった…。これでまた就職活動はやり直しになった。

両親との約束通り、先方に断りの電話を入れた…。このことで精神的に疲れてもいた…。

就職活動はこの事件を境にまたしても「迷走」を始めるのであった…。

2010年3月15日・「援軍」現る。

内定辞退の事件後...「迷走」は果てしなく続いていた...。そんな中でも突破口を開こうとさまざまな「手段」を講じていた。

- ・応募書類をクリアファイルに入れて送る...
- ・履歴書、職務経歴書、添え状などの書類の刷新。
- ・合同面接会の参加。

しかし、まったくもって成果が出ない...。2月と3月初旬の1ヵ月あまりで面接はわずか2社...。応募も女性のみ採用などが多く、応募会社数が増えないのが現状であった。それと同時にハローワークからの給付金が終了した...。それも前の会社は診断書を出したのにもかかわらず、「自己都合」での退職扱いにされ、給付制限付きのわずか3回のみ給付...。金銭面でも貯金を取り崩しての生活...そんな中での就職活動ですべての面で窮地に追い込まれているのがわかった...

そして、3月5日ある合同面接会に参加をする。場所は東京・飯田橋にある、東京しごとセンター。厚生労働省が運営する、ハローワークとは違って、東京都が運営する就職支援の施設である。その合同面接会はハローワークと東京しごとセンターが共催をする形で行われていたこともあって、東京しごとセンターの登録が事前に必要ということ...数分の登録をした後に参加した。そして、帰りに何気なく東京しごとセンターのパンフレットをもらって帰ってきた。ただ、その時点ではこの施設にお世話になるつもりはなかった。ハローワークとある派遣会社で働いていたからだ...

しかし、それとは裏腹に「答え」は同じ...。10日後に動いた。東京しごとセンターでは30歳から50歳の間を「ミドル」と位置付けて、専属のアドバイザーを無料でつけられるということ。しかも、ある職業紹介会社に民間委託をしていることもあって、就職に関するセミナーも充実しているのだ。これを逃す手はない。

3月15日の月曜日...学校は「確定申告期間」のため会計事務所にお勤めの方のための休講期間...。時間も空いているためこの日に東京しごとセンターへ向かった。総合受付で一通りの説明を受けて、今日早速アドバイザーをつけるがいいかという事を聞いてきたので、二つ返事でOKを出した。その後50分ほどカウンセリングを受けた。そこで今までの就職活動の内容等が聞かれたが、応募者数や就職活動の進め方など、今やってきていることは間違っていないということがわかった。その後、たくさんの資料をもらい書類の刷新や、面接の受け方など簡単なアドバイスを受けて初回のカウンセリングは終了した。これから心強い「援軍」になってくれそうな、そんな気がした。

2010年4月・サクラサカズ...

4月になった...。面接は多少増えたが、内定は全くない...。特に会計事務所の応募は壊滅的で半年ほどの経験ではまったく話にならない...もし面接になっても話を聞いてくれない...。自分の方を向いてくれない税理士事務所の所長さんまでいた...

そんな4月初めのある日、ハローワークの職員の方でこんな方がいた...

その方は何度も紹介や相談をしていただいたこともあって、世間話をするなど相当の顔見知りになった。その人に当たった時にふとこういった...

「桜が満開だね...。あなたにも桜が咲くといいんですけどね...。」

その時はふと、聞き流していたが...外に出ると確かに桜は満開だった...。「いつ咲くのかな...。」心の中でそうつぶやいた...

それとは裏腹に4月を超えて、ゴールデンウィークになっても面接が増えているが...内定には至らない状態...。書類選考も200社は超えていた。まだまだ「サクラサカズ」の状態であった。

2010年5月13日・自己PR文

5月13日に東京しごとセンターのあるセミナーに参加した。

「自己PR文作成セミナー」

普通、就職活動には添え状（あいさつ文）、履歴書、職務経歴書、ハローワークでの応募の際にはハローワークが交付される紹介状を送るのが通常である。そこに新しい書類として「自己PR文」を作成して送るとというのが今回の目的であった。

この日はおよそ2時間、細かな話は割愛するが、今までの経験の洗い出しや自己分析に近いものを行い、その後それらに基づいて自己PR文を作成するところまで到達した。

その後、パソコンでブラッシュアップを行い、担当の講師にメールで送り添削をしてもらった。その後ようやく送れるような代物になった。

この「自己PR文」だけで内定が取れるとはまったく思っていないが...何もしないよりもまし。少しでも書類選考の通過率をあげるのに少しでも役立てばと思っている。

2010年6月7日・内定取り消し。

5月28日の夜にその出来事は始まった。

都内にある会社にインターネットを通じて応募をして、その会社から面接の話が来た。それが5月28日の夜7時から…。20分以上前に目的地に到着し、時間になるのを待っていた。そして夜の7時にそこの会社に向かったが、面接の担当者が遅刻するとのこと、面接が始まったのが10分ほど遅れただろうか…。

面接の内容は、一般的なもの。ただ、そこの担当者が「いや～スーパーマンみたいだね…あなたは…」と持ちあげるのには妙に気になった…。面接は15分ほどで終わり選考に入った。

5月31日の夜8時過ぎに自分の携帯電話が鳴った。ちょうど学校にいる時間で授業中…。電話に出られる状況ではない…。しかし何度もしつこいほどかかってきた…。授業を抜け出し電話に出るとその会社の関係者だった。「今は電話には出られない。」と断ると「明日かける」と言って電話を切った。

翌朝。電話があった。「内定」とのこと。先方はかなり急いでいたが…翌日の6月2日にある会社の面接があり、それが終了後に内定を受諾しようと思っており。それを伝えた。東京しごとセンターのアドバイザーにも挨拶をし、ハローワークも行かないでいいやと思い、書類の整理をしていた。そして、のどの調子が悪いこともあって、入社前に耳鼻科に行こうと思い、その面接が終了後に新たに開設された耳鼻科に行くことにした。まあ、「身辺整理」と言っている。

6月2日。面接が午前中に終了し、地元にある耳鼻科に向かった。ちょうどその日がオープンになった新しい耳鼻科である。オープンしたばかりということでものすごい人で3時間ほど待ただろうか…。ようやく自分の番が来た。「のどがゼロゼロする。」という旨を伝えると両方の鼻からファイバースコープを入れ、のどまでの様子を見だした。左の鼻にファイバーを入れてしばらくすると医者の手が止まった。

「どうも気になりますね…。」

画面を見る目の医者の表情が厳しくなった。見ると鼻の中に腫瘍のようなものが出来ていた。もうアデノイドという年でもない…。すべてが終了すると医者はこういった。

「うちでは検査をできる施設がない。紹介状を出しますから、すぐに大学病院へ検査に行ってください。」

病気のことももちろんだが…内定先にどう言って入社を先に延ばすか…それも頭に浮かんだ…。

先方には電話をかけるが…つながらない…。つながったのはその日の夜のこと…。入社的心思と現状を伝えた。先方の担当者は困ったようだったが、「病院で検査が終わったら電話をしてください。」と言って電話を切った。

大学病院での検査は6月7日のこと…。検査はそれほど時間がかからず終わった…。正式の結果は後日になるが…大したことはないとのこと…。その後、先方に電話をするもつながらず留守電に検査の結果と改めての入社的心思を伝えた…。しかし、2時間ほどして先方からの電話で絶望に突き落とされた…。

「今回の内定はなかったことにしてほしい。ご縁がなかったことにしてほしい…。」

内定の取消しだった。内定の報告をかなりの人にしたのでその人たちにすべてなくなったとメールで報告し、東京しごとセンターにも事実を伝えた。担当のアドバイザーは「こんなことです

ぐに取り消されたのは初めてだ。」とびっくりしていた。

最悪な6月になったな…。そうつぶやいた。つぶやいても時は戻らない…。

そして、鼻の腫瘍は後にアデノイドとわかった。何もなかったことは「不幸中の幸い」だった

。

2010年6月25日・誕生日。

2010年6月25日に35歳の誕生日を迎えた。もう「祝ってもらえる年」ではない…。それ以上に全く仕事が決まらなければ、うれしくもなんともない…。

同時にハローワークの「ヤングコーナー」からも卒業。これからは一般の求職者と同じ窓口で紹介や相談を受けることになる…。6月も立て続けに面接は4社あったが…すべて不採用…。悪い流れは止まらない…。内定取り消し後、東京しごとセンターの「面接対応力アップ」のセミナーに参加して、面接のロールプレイングを受けてみた。そこには、仕事を得るのに相当苦勞をしている「同土」がいた。

300社以上の応募…30社以上の面接…。それだけやっても仕事は決まらない…。この先に「光」はあるのか…。見えないゴールに向かって走っている…そんな感じだ…。

間もなく梅雨も明けて、夏になる…退職から1年…。「迷走」はいまだ続く…。「焦り」はないわけではない…。

Epilogue

手短ながら...ここ1年の話をまとめてみた...。振り返ってみると紆余曲折いろいろあった...。振り返りたくない悪いことだらけだったけど...

2008年のリーマンショック以来、雇用状況は一向に改善を見せていない。ハローワークを利用する求職者の数は増加に歯止めがかからないし、その中には派遣やバイトなどの非正規雇用に流れていってしまった方も少なくはないだろう...。派遣をめぐっては、恐ろしい事件まで起こってしまっている。ますます雇用に対する「闇」は深くなる一方だ...。ある会社の面接で「失われた10年世代は採りたくない。仕事に対する『初等教育』が全くできていない。採るんだったら37歳から42歳」とはっきりと言われたこともある。「言い得て妙」だなとも思う...

そんな中でもどうすれば自分の納得できる就職活動ができるのかは日々腐心しているつもり...。運よく内定が取れ入社をしてもすぐに退職をしてしまう方も少なくないという...。少しでも長く腰を落ち着けて仕事ができる環境を探している。

そんな日はいつ来るのだろうか...？

2010年6月25日

わらじ